



「第二次日本経穴委員会」便り

～第13回 経穴部位国際標準化の経緯と今後～

第二次日本経穴委員会・作業部会委員 さかくちしゅんじ 坂口俊二

今回は、2005年6月10日に開催された第54回(社)全日本鍼灸学会学術大会(福岡)でのワークショップ「WHO経穴部位標準化会議における協議内容について」の内容を報告したいと思います。

現場との温度差

第二次経穴委員会のこれまでの活動については、本誌および全日本鍼灸学会雑誌などで、報告してきました。特に本誌ではこの連載で、毎月のように開催される作業部会の内容をできる限り詳細に報告しています。しかし、われわれは、作業部会の動きと現場の反応は必ずしも同期していないことを薄々感じていました。それは、本年1月に朝日新聞に「ツボの位置日中韓で差」の記事が掲載された後の反響の少なさに象徴されています。経穴部位の標準化は世界の趨勢です。WPRO(世界保健機関・西太平洋地域)では、経穴部位のみならず伝統医学用語の標準化も主導しています。重要なテーマは伝統医学からGlobal Medicineへのシフトなのです。この動きをもっと肌で感じてもらいたい。そのためには、標準化の意義と経緯、そして今後を皆さんに知ってもらう場が必要だと考えていました。それがようやく実現したのです。

日本経穴委員会の歩み

最初に、形井委員長から、1965年からの(第一次)日本経穴委員会の活動の経緯、1989年にWHO主導で経穴名は統一されたが、その際に経穴部位を標準化することができなかったこと、しかし、その成果として出版された『標準経穴学』の意義などが報告されました。年々鍼灸学会の参加者も二極化されるようになり、特に若い鍼灸師は、経絡経穴の研究が最も盛んだった頃の研究成果について教育を受けている機会も少ないようです。その意味では歴史的背景を知ってもらうことも重要であったと思います。

活動の真意を伝える

次に、筆者の坂口が、これまで4回開催された日中韓の非公式国際会議の経緯と、(第二次)日本経穴委員会の作業部会がこれまで11回にわたって行ってきた会議の中で何をどのような手順を経て進めてきたのかを報告しました。作業の大変さを示そうとしたのではなく、その過程の積み上げそのものの様子から部位決定のありのままを知ってもらいたかったのです。

もっとも基本的なこと

篠原副委員長からは、第2回の非公式国際会

議（北京）で決定した経穴部位を決定するための理論と方法について報告がありました。そこには、文献の分析、臨床実践、実測を総合して経穴部位を決定するということが明記されています。これは、歴史と現実の両方を尊重する「respect history and real」の原則です。また具体的には、解剖学的体表基準点、骨度法が決定されました。その中には現在の学校教育とは異なるものもあります。その一例は前腕の長さです。日本で多くは1尺説を採用していますが、今回の基準は1尺2寸となっています。どこがこれまでと違うのか、それを知ってもらいたい機会になったと思います。

各国が譲れない経穴

浦山委員からは、問題となった主な経穴部位と検討結果が報告されました。すなわち、3カ国で部位が一致しない（分岐している）経穴が生じた原因の検討です。第1に挙げたのが、「古典の条文に問題がある」ということでした。具体的には、①古典の条文が特定の1カ所を示さない、②伝写の過程で字句が変化する、③解釈によって説が異なる、の3点を挙げました。これこそ、会議の場で確認し各国の相違を埋め合わせていく必要のある課題です。

第2は、「後代の文献を重要視する」という点です。具体的には『銅人腧穴鍼灸図経』およびそれ以降の文献を採用していることです。これまで4回を重ねた国際会議でいまだに保留となっている中衝、水溝などはこの部分に帰着しています。水溝は、「在鼻柱下人中…直唇取之（『甲乙経』巻三・第十）」、「在鼻下三分、陷中（『玉龍経』一百二十穴玉龍歌・口气）」、「在鼻柱下、溝中央（『神応経』穴法図）」のように記載されており、中国は『玉龍経』の説を強く主張しています。



原南陽『経穴彙解』より

中衝についても、「在手中指之端、去爪甲如韭葉、陷者中（『甲乙経』巻三・第二十五）」、「在手中指内廉之端、去爪甲如韭葉許（『鍼灸大全』巻三・子午流注逐日按時定穴歌）」、「在中指指尖（『瘍医大全』）」のように記載されており、中国・韓国は中指尖端中央の説をとっています。

そして、最後の締めくくりとして、「現実を優先する」、「古典説を折衷する」ことの重要性を述べられました。

また9月に第5回目の会議に臨むわれわれへの戒めとしても、今まで以上に3カ国が十分コミュニケーションをとりながら、「古典や解剖学的表現にこだわり過ぎない」、「臨床経験にこだわり過ぎない」、「自国の面子にこだわり過ぎない」という3つの「過ぎない」の原則を挙げられました。大きな目的を失わないよう9月の大阪会議（於：関西鍼灸大学）に臨みます。ご期待下さい。

(〒590-0482 大阪府泉南郡熊取町若葉2-11-1

関西鍼灸大学)